

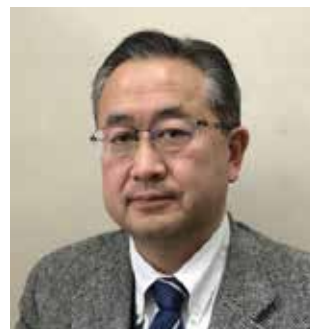
部会長就任にあたり ～2Gの役割～

千葉大学大学院工学研究院
赤染 元浩

この度、有機結晶部会におきまして佐田先生から部会長のタスキを引き継ぎました千葉大学の赤染元浩です。

皆様のご協力無くしては到底務まりませんので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「2G」は後で説明するとして、戸田芙三夫先生を初代部会長として創設された「有機結晶部会」は、大橋先生、中西先生、小倉先生、佐藤先生（2期）、黒田先生、坂本先生、田村先生、佐田先生を部会長とする舵取りのもと大いに発展しました。私で10人目になります。日本化学会本体の不安材料は多々ありますが、部会員の皆様にとって安定した学術的な交流の場として現在に至ることは大変ありがたいことであり、過去の部会長先生方のご尽力にとっても感謝致しております。



また、佐田前部会長からは、「日本化学会では、部会関連事項は、支部長・部会長会議で討議される。たとえ部会の中では最小であっても、他の部会や全国の支部と同列にあるので、部会長はその存在意義の大きさを考えないといけない」とハードルを上げる言葉もいただき、その大役に身の引きしまる思いです。

ただ、私もニューズレター(以下 NL)編集員、幹事、副部会長であった以上、受ける覚悟はございます。大切なことは「有機結晶部会」を魅力ある学会活動の場として盛り上げる努力するの一念ですので、お認めいただければ幸いです。最近では、田村先生が部会長の折に役員会を整理してくださり、役員等の担当も明確になりました、このスタイルで部会長任期の2年間その任務にあたります。

部会とディビジョンが同一名称である「有機結晶」は化学会でも特異な存在ですが、2つは連携する必要性からディビジョン主査も小職にお任せ願います。「有機結晶ディビジョン」は、21あるディビジョンの一つであり、化学会を支える一構成単位であり、「有機結晶部会」は独自性を発揮し、自由度の高さを活かした活動の展開が期待されており、シンポジウムも「有機結晶シンポジウム」と部会の言葉を入れず、部会員だけでなく、より開放的な学術交流の場としています（この考えは、NL No.20の佐藤元部会長の巻頭言にもあります）。

具体的な今後の行事等では、早くも本年6月には有機結晶部会と関連深い ICCOSS-24 がニューヨークで開催されます。また、秋には舟橋先生のお世話で第28回有機結晶シンポジウムが香川で開催されます。来年の2020年には環太平洋国際化学会議(Pacificchem)にも有機結晶関連のセッションがあります。書籍活動では、Springerよ

り出版予定の「Advances in Organic Crystal Chemistry: Comprehensive Reviews 2020」の準備が進んでいます。また、ディビジョンでは、3度目となるアジア国際シンポジウムの準備を進める時期になります。

皆様からのご協力いただき、色々準備を進めていかなくてはなりません。是非、いつでも結構ですので、ご意見やアイデアをお寄せ下さい。

最後に自己紹介として「2G」の話ですが、「G」は Generation の G です。最近、情報通信システムは4Gから5Gへの移行が話題になっております。

本部会も設立当時の第1世代の先生の多くが既に定年で大学はもとより部会を離れられました。前部会長の佐田先生が就任の巻頭言(NLのNo.40)で「有機結晶部会での第2世代の一人として責任ある立場になっており、部会長と引き受ける」と書かれています。私も第2世代として同感であります。1994年に千葉大学小倉研究室の助手に着任したことが、有機結晶化学の研究スタートでした。自分で選んだというより運命的な出会いでありました。幸い戸田先生は、助手も当時の部会前身の重点領域研究「有機結晶環境下での反応設計」に研究協力者として加えて下さり、大橋先生や中西先生など多くの第1世代の先生から大学を越えて、有機結晶化学について直接学ぶ幸運に恵まれました。

第2世代は、自分の研究を持って部会に入ったというより、有機結晶部会の発展とともに自分とその研究を育ててもらった状況です。私の学位は錯体触媒研究です。京大の石油化学科の学生時代に戸田先生のセミナーが開催され、キラルな包接現象を使えば、蒸留で光学分割出来る話を聞いて大変衝撃を受けました。今では包接結晶が自分の主テーマです、戸田先生や小倉先生との出会いでその後の研究テーマを決めたといっても過言ではありません。

部会に恩返しする気持ちであります。また、第3世代(おそらく部会がご自分の研究にマッチする理由で入会された方)、さらには、第4世代(今の学生会員)へと、さらなる発展とともにタスキを渡す責任を感じています。

部会の益々の発展のため、どうぞご協力の程よろしくお願い申し上げます。